

## 4 暮らしを高める<sup>わが</sup>願い

### (1) 新江用水<sup>しんえようすい</sup>

○ 新江用水<sup>しんえようすい</sup>を引くために、だれが、どんな苦勞や努力<sup>くろうどりよく</sup>をしたか調べましょう。



現在、阿賀野市には、三つの大きな用水路が流れています。これらの用水路のおかげで、田に十分な水を引くことができ、毎年、米がたくさんとれるのです。

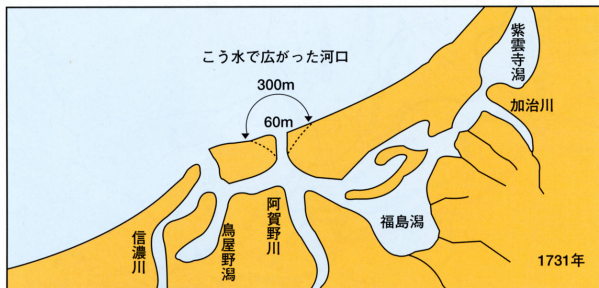
新江用水は、これら三つの用水路の一つで、渡場の取水口から、阿賀野川に沿って流れている用水路です。

## (2) 農民の願い

今から280年ほど前の1730年ころまで、阿賀野市の平地にある地域の中で、岡方の人々は、田植えの時期の水不足、雪どけの時期や梅雨時の水害に悩まされていました。それは、山の木がたくさん切られたために水源が荒れてしまったことなどが原因でした。

そこで、岡方に住んでいた岡方組の農民たちは、この地方の奉行に新江川を作ることを許してほしいと願い出ました。しかし、奉行は許してくれませんでした。

1731年のことです。雪どけの大水が、阿賀野川をおそいました。その水で、60mほどの河口付近の川幅が、300mにも広がってしまったのです。



※岡方とは、阿賀野川右岸の堤防沿いにあった旧岡方村、旧京ヶ瀬村、旧分田村、旧堀越村、旧安田村の中の53カ村を指す。

※岡方組とは、新発田藩領岡方53カ村の農民たちで組織されたものである。(新江組とも呼ばれていた。)新江用水完成後も管理に努め、長い年月を経て幾度となく組織変更され、現在は阿賀野川土地改良区となっている。なお、現在の新江用水路を管理する団体は、阿賀用水右岸土地改良区連合である。

川幅が広がったことで、阿賀野川の水が今までよりたくさん海に流れ出るようになり、水位が2mも低くなってしまいました。阿賀野川から苦労して水を引いていた岡方では、水位が低くなったことで、水を引くことがさらにこんなになってしまいました。

このままでは作物を作ることにはできません。作物ができないということは、生活ができないということです。ですから、土地の高い岡方を流れる用水路を作りたいという願いは、岡方の人々にとっては、命をかけた願いだったのです。



### (3) 岡方組の苦心

#### ① 幕府に願い出る

岡方組の農民たちは、新発田藩のどの様に、用水路を作ってほしいと訴えました。

すると、どの様は訴えを聞き入れてくれたばかりでなく、新江用水をほる計画を立てるのに知恵までかしてくれました。

さらに、新発田藩のどの様は、53カ村の庄屋の中から数名を選び出し、その者たちを連れ、何日もかけて江戸に行きました。そして、幕府に用水を作ることを許してくれるよう熱心にお願ひしました。その思いが通じ、幕府はようやく重い腰をあげて、役人の番利兵衛に調査を命じました。(※庄屋とは、地域を治めた人で、名主とも言う。)

## ② 阿賀野川の上流の人たちの反対

新江用水を作ることに、川の上流の人たちは反対しました。用水を作るためには上流の人たちの土地をつぶさなければならないからです。また、水を取り入れる取水口がかわれると水の被害が出るからです。

それでも、岡方組の農民たちは、岡方の生活を守らねばならないと、何度も上流の人たちと話し合いをしました。

しかし、うまくいきません。そこで、幕府の役人、番利兵衛さんの力をかりて、次のようなやくそくをして、ようやく話し合いをまとめました。

### 下流の農民が新江用水をほるときのやくそく（1733年の証文）

- これから後、新江の取り入れ口がかわれたり、用水がそくになつたりした場合は、その年のとれ高を予想し、それに合うだけのべんしよ金をはらいます。また、新江の水もれによる水害や家小屋のひ害をもとにもとず工事には岡方組が全部やります。
- 新江にかけられた橋、その他のしせつの修理は、いつまでも岡方組が責任をもってやります。
- 新江をほる時つぶした土地には、買上代金の他に、毎年、その土地の分の年貢米を、それぞれの役所のくらに収めます。
- 新江から水をひきたい村は、どうを使つて下さい。

## ③ むずかしく、たいへんだった工事

新江用水の工事は、当時の日本一の技術をもった役人が監督をしていたとはいえ、たいへんな工事でした。なぜならば、今のような機械や道具、土地の高低などを測る技術がなかったため、すべて人の手で行わなければならなかったからです。

## 工事のやり方

### ○ 土地の高低を調べる

身長150cmの男子に白いはちまきをさせて、約100mおきに立たせ、高い所はほらせ、逆に低い所は土をもらせて、高低を決めました。夜は、目の高さにちょうちんを持たせて、高低をはかりました。



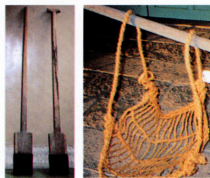
### ○ 低い方へ低い方へとほっていく

ほりわり用水といって、土手をきずかなくても水が流れる土地をえらんで、ほってつくりました。かたくて、くさりにくい「くり」の木を川床に置いて、流れをかげんしました。



### ○ すべて、人の手と道具でほる

今のような機械がなく、すべて、人の手と道具でほりました。ひとくわひとくわ、ひとすきひとすき、モッコで土運びをしてほり進みました。



工事に使われた道具（すきとモッコ）

#### ④ 新江用水の完成

新江用水をほるために、岡方組の農民たちは、自分の家の仕事も満足にしないで、くる日もくる日も夜おそくまで工事の仕事にかりだされました。雨の日も休みませんでした。わき水やじゃりが出てきてなかなか進まないことがあってもくじけず、がんばって工事を続けました。

そのかいがあって、およそ10ヵ月かかって、新江用水は完成しました。これで作物を育てることができる、今までの苦勞がむくわれると、岡方組の農民たちは大喜びしました。



計画書によると、この工事に必要な人数は4万3,468人、てまちなは約434両になります。そのほかにも、新江用水をほるために買った土地は約22町歩で、その代金は604両にもなりました。

また、工事に関係した人は、幕府の役人がのべ4,693人、新発田藩の役人がのべ1万44人もいましたが、その人たちのせったい費、食事代、酒代、おみやげ代などもたくさんかかりました。

このことから、多くの人たちが働き、多くのお金を使った工事であったことがわかります。

(※1町歩は約99<sup>あ</sup>反)

#### (4) 新江用水のめぐみ

8里21町45間 (33.6km) におよぶ新江用水が完成し、もとの田845町歩、新しい田73町歩、全部で918町歩の田に水をひくことができるようになりました。

新江用水ができてからおよそ50年後、全国的に作物のできが悪い年がつづきました。上越地方では数百人が死んだそうです。しかし、阿賀野市では、ききんにそなえた食べ物のおかげで、死者を出さずにすみました。これも、新江用水ができたおかげだといわれています。

(※1里は約3.9km)

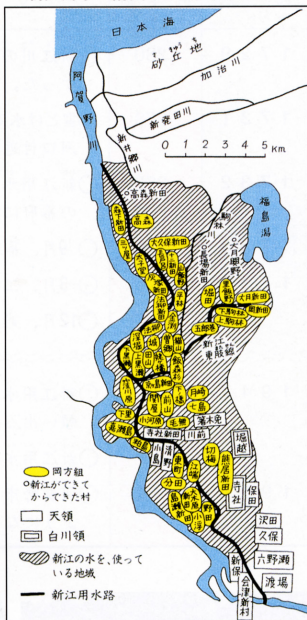
(※1町は約 109m)

(※1間は約 1.82m)



収穫を喜ぶ農民たち

#### 新江用水の計画をおしすすめた村々



青木不二夫「新江用水開削の諸問題」より

しん え よう すい ねん びょう  
新江用水の年表

(平成21年現在)

西 暦	何 年 前	で き ご と
1729	280	○新江川の計画を幕府に出すがゆるされなかった。
1731	278	○雪どけ水で阿賀野川の河口の岸がけずられ、河口付近の川はばが300mになる。
1732	277	○新江用水をほる新しい計画を立て、江戸の幕府に願出する。
1733	276	○9月、幕府が、用水を作ることをゆるす。
1734	275	○3月、工事が始まる。 ○12月、新江用水が完成する。
~~~~~		
1947	62	○新江用水をよくするように、国の役所に願出する。 ○新江用水路の国の工事が始まる。
1967	42	○阿賀野市小松（安田地区）から取水するようになる。



昔の新江用水



現在の新江用水